



Protect Our Nation's Youth PONY BASEBALL

公益社団法人
日本ポニーベースボール協会

🏆 日本ポニーベースボール協会の歴史 🏆

日本にポニーベースボールが紹介されたのは昭和49年代中頃、当時カリフォルニア州ロスアンゼルス市でポニーのフィールドディレクターをしていた故ミルトン・デュベイン氏が知人を通じて前日本協会理事長の故伊藤慎介に紹介したのが始まりです。その後、伊藤を中心に発足準備が始まり、昭和50年5月5日の子供の日、日本ポニーベースボール協会として川崎球場で第一回目の日本選手権大会が開催されました。翌年にはブロンコリーグも発足しました。発足の年の8月、日本ポニー代表は日米親善大会の為渡米。ロスアンゼルス地区を中心に7試合を行い3勝4敗。それ以後、来日と渡米が1年ごとに繰り返され現在にいたっています。

世界選手権大会の予選であるアジア太平洋地域選手権大会は、まずブロンコリーグが昭和58年に初参加。翌年にはポニーリーグも参加しています。また、ロシアにて日本、ハワイ合同の親善大会を開催したり、中国、台湾等とも親善大会を行い 各国の青少年をベースボールを通じて立派な大人に育てようという目標にむかって進んでいます。

このような国際的な活動がベースボール発祥の地であるアメリカ合衆国の歴代大統領から評価され、レーガン大統領からホワイトハウスへ招待状を受けたのをかわきりに、ブッシュ、クリントン、現ブッシュと歴代大統領からもホワイトハウスへ招待状を受け親書を手渡しています。

🏆 ポニーベースボールの誕生と歴史 🏆

特色：年齢に適合したダイヤモンドサイズを採用

ベースボールの本場、アメリカに於いて歳月をかけて研究した結果、成長期の子供にとって最も理想的なのは2年制リーグであるという事でした。殆どの団体が3年制リーグを採用していますが、成長期の子供はご存じのように著しい成長を見せます。3年制リーグですと、最年少の子供と最年長の子供では体力的な格差が大きく、最年少の子供は練習に何とかついていくため無理をして、結果、肘、肩等を壊すことが多々あります。また、試合用のユニフォームを与えられても控えとしてずっとダッグアウトに座っているか、最悪の場合白いユニフォームの練習生扱いとなってしまいます。ポニーベースボールでは、このような事態を避けるため、年齢に適合したダイヤモンドサイズを採用しています。

基本的にはアメリカで開発されたプログラムなので4月入学の日本の学校制度には若干一致しませんので、国内大会のみ右記の表のように分けています。国内のポニーリーグでは、中学1年生から3年生までがプレー可能ですが、2

年制度の理念を失わないよう、各リーグで選手構成を配慮しながらチーム作りを行っています。

リーグ名	アメリカ	日本
シェットランド	5～6歳	小学生低学年としてマスタングの名称で運営
ピント	7～8歳	
マスタング	9～10歳	
ブロンコ	11～12歳	ポニーブロンコの名称で小学生高学年を運営
ポニー	13～14歳	中学1年生～中学3年生
コルト	14～15歳	中学2年生～中学3年生





ポニーリーグの誕生「U14」



一番最初にできたのは13～14歳を対象としたポニーリーグでした。1940年代、アメリカの少年野球界ではリトルリーグを修了した子供達の為のプログラムが模索されていました。13歳の子供には正規サイズのダイヤモンドは大きすぎたのです。1950年、ペンシルバニア州ワシントン市の新聞『レポーター』紙の編集委員だったルー・ヘイズ氏は地元の出版社『オブザバー』の会議室にワシントン市リトルリーグ会長のウィリアム・ヘモス氏、後にポニー初代会長になるハワード・ウエア氏他十数名を集め、リトルリーグ修了生の為のリーグ会議を開き、新たなリーグ『ポニーベースボール』を設立しました。PONYとは地元のYMCAの少年達から提案されたもので、Protect 守る、Our 我々の、Neighbor's 近隣の、Youth 青少年、『我々の近隣の青

少年を守ろう』という意義がありました。その後、NをNation's 国の、に変更し今日にいたっています。

1951年夏に6チームが参加し正式に活動を開始。当初はワシントン市以外の都市へ普及する考えはありませんでしたが、クチこみにより問い合わせが殺到し、急速に各都市へ普及し翌年には106リーグ、511チーム体制へと拡大し、登録選手数は8,176名に及びました。ワシントン商工会議所はワシントン高校の球場を使用し第一回ポニーリーグワールドシリーズを開催する事を決定。栄えある第一回優勝はテキサス州サンアントニオ・ポニーでした。1953年、ポニー本部球場がワシントン市に設立。ワールドシリーズも本部球場に舞台を移しました。現在もポニー本部球場にて開催されています。



コルトリーグの誕生「U15」



次に発足したのが15～16歳を対象としたコルトリーグです。このリーグはもともと、他団体として独自に運営されていました。1953年、オハイオ州マーチンスフェリー市でジョン・ラスロ氏が地元の体育協会の援助を得て設立。このリーグも急速に全国に普及しました。1957年にはカリフォルニア州エバンストン市に本部を移しました。同年、カリフォルニア州サンバルティノ市で15～16歳を対象とした新たなリーグ、ナショナルボーイズベースボールが発足しまし

た。これ等2つの異なる団体はそれぞれにワールドシリーズを開催。同年齢を対象とする団体が2つできたことで、修了生を送り込んでいたポニー協会は困惑しました。そこで、ポニーリーグではポニー修了生リーグを結成し、ナショナルボーイズベースボールと話し合いの結果合併。その後、1959年、コルトリーグとポニー修了生リーグはピッツバーグで会合を開き、翌年には合併し念願の全国統一規模のコルトリーグがポニー協会の傘下で発足しました。



ポニーブロンコリーグの誕生「U12」



11～12歳対象のポニーブロンコリーグはもともとジュニアポニーリーグと呼ばれていました。11～12歳の子供達はリトルリーグでプレーしていたのですが、リトルリーグではリードと盗塁に規制がありました。日増しに11～12歳の為の「リアルベースボール」の要求が高まりはじめポニーでも自主運営していたジュニアリーグを1963年、ポニー

ブロンコリーグと改称し、第三番目のリーグとして発足しました。

その後、1969年にはマスタングリーグ、1974年にはシェットランド、ピント、パラミノリーグがそれぞれ発足しています。



選手に適したダイヤモンド



ポニーベースボールの特色の1つとして、上記の年齢制度に加えて年齢にあったダイヤモンドの採用があります。子供がプレーしやすいようにルールを変更するよりも、ダイヤモンドのサイズを変更する事により、身体能力に見合ったプレーが可能になると考えています。もし、全ての年齢の子供達が通常のダイヤモンドでプレーすると、どのような事が起こるでしょうか。殆どの子供達は内野、外野を問わず中へ中へと入ってきます。ファーストやサードの子は、ベースの前に立ちます。外野の子は極端に内野に近づいてき

ます。

このような事態は、ダイヤモンドを縮小する事により解決できます。縮小する事により、全ての距離が、大リーグが大リーガーにプレーさせようと意図した空間距離と同等の距離を子供達に与えることが可能になり、大リーガーと同等のプレーを可能にするのです。

各リーグのダイヤモンドサイズは下記のとおりです。

しかし、現在は、基礎体力の向上により、別記のダイヤモンドサイズにて運営しています。

ポニーリーグのダイヤモンド

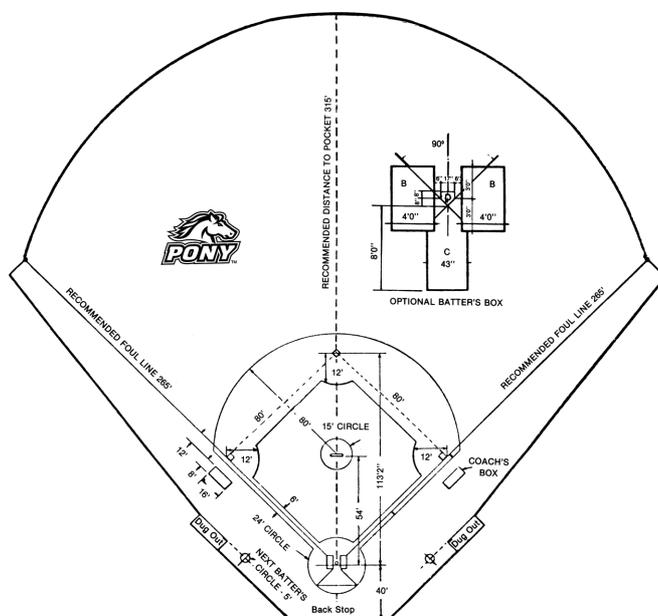
	従来	現在
ベース間距離	80フィート(24.38m)	85フィート(25.84m)
投球間距離	54フィート(16.46m)	57.3フィート(17.41m)
本塁・二塁間距離	113.2フィート(34.50m)	120.2フィート(36.50m)

コルトリーグのダイヤモンド

	従来	現在
ベース間距離	90フィート(27.43m)	90フィート(27.43m)
投球間距離	60.6フィート(18.47m)	60.6フィート(18.47m)
本塁・二塁間距離	127.3フィート(38.80m)	127.3フィート(38.80m)

ポニーブロンコリーグのダイヤモンド

	従来	現在
ベース間距離	70フィート(21.34m)	75フィート(22.86m)
投球間距離	48フィート(14.63m)	51フィート(15.54m)
本塁・二塁間距離	99フィート(30.18m)	106フィート(32.3m)





年間行事



公益社団法人 日本ポニーベースボール協会本部が主催する行事は以下のとおりです。

1. 全日本選手権大会

ポニーリーグ 7月下旬
ブロンコリーグ 8月上旬

2. アジア太平洋地域選手権大会

ブロンコリーグ 7月下旬
ポニーリーグ 8月上旬

アメリカ本部が主催する世界選手権大会出場の為、日本、中国、韓国、台湾、香港、フィリピン、ロシア各国で予選を行い優勝チームを決定してアジア代表チームを選出する。

3. 日米親善大会

1年ごとに訪米、来日を繰り返す親善大会。選手達は原則としてホームステイし、異国の文化に触れる友好大会。

4. 地方大会

沖縄大会 3月下旬に沖縄県にて開催される親善大会
北海道大会 8月下旬に北海道にて開催される親善大会

5. コルト大会

9月～12月の週末に開催する中学2・3年生と高校1年生による大会。通常のダイヤモンドサイズで運営される。

6. 全日本コルトリーグ 中学野球選手権大会

12月に開催。通常ダイヤモンドサイズにて運営。他リーグの選手も参加してのコルトリーグNo.1を決める大会。

7. 地方大会

その他、関東連盟の新潟リーグが主催する新潟大会が8月下旬、読売新聞社が主催する日本国内の少年硬式野球団体全てのチームが参加して日本一を決めるジャイアンツカップが8月中旬に開催。

8. その他「各連盟が主催する大会」



公益社団法人 日本ポニーベースボール協会加盟手続き



具体的な加盟手続きを説明します。

加盟決定されましたら、日本ポニーベースボール協会本部事務局まで御一報下さい。お迎えし必要書類を送ります。

送られる書類は

- 協会加盟申込書 1枚
- 選手登録書 2枚～4枚
- プレーヤー登録カード(登録希望者分)

協会加盟申込書とは4チームまで記載可能なリーグの役員一覧表です。出来るかぎり詳細に記入して下さい。選手登録書は15名まで記載可能な選手名簿です。プレーヤー登録カードは、選手1名1名が記入する個人記録書です。このカードには裏に選手の写真を貼り付け、住民票か生徒手帳のコピーを添付して下さい。

加盟金は

- 新規入会金 30,000円(加盟初年度のみ)
- 加盟金 30,000円(毎年1リーグにつき)
- 米国本部登録金 10,000円(毎年各チームごと)
- 選手登録金 6,000円(毎年1名分)

上記に該当する金額の合計を指定銀行口座へ振込みいただきますと、確認修了後、本部より選手1人1人が携帯する会員証が送付されます。この会員証は試合前、必ず審判員が本人確認の為使用しますので、忘れずにお持ち下さい。

興味ある小・中学生は下記へ連絡を!! 新チームも募集中!!



ポニーベースボール Q & A



少年硬式野球を始めてみたいと考えられてる方々からよく聞かれる質問をQ&Aでまとめてみましたので、ご参考ください。皆様の加盟をお待ちしています。

Q 盗塁ができないと聞きましたが？

A 盗塁はできます。ルールは通常の野球と同じです。ポニーリーグには小学生と中学1年対象のブロンコリーグがありますが、このブロンコの設立の目的が、リトルリーグでは通常の離塁と盗塁ができないので、もともと提携していたリトルリーグを離れ新たに普通の野球ができるよう1963年に立ち上げたのがブロンコリーグです。

Q 試合時間に規制はないのですか？

A 基本的にはありません。アメリカのプログラムなので、決着がつくまで延長します。ただし、日本国内では、各地方連盟の大会によって、運営上の理由により規制が入る大会もあります。また、5回以降のコールドは試合成立ですが、4回までにコールドになった場合は無効試合ではなく、サスペンディッド試合とし、新たに設定された日時に中断した状態から再度試合を行います。

Q ボールの大きさが他のリーグと違うのは本当ですか？

A 全く一緒です。ポニー刻印入りのボールを使用しています。

Q 交流試合ができますか？

A できます。練習試合は基本的にOKです。それ以外はそのチームが拠点とする区市町村が主催する野球大会やプロ野球球団が主催する〇〇カップへの参加もOKです。規制があるのは、他の団体が主催する選手権大会への参加です。これも事前の話し合いにより、認めれば許可します。

Q 選手に適したダイヤモンド

A 長年、米国の関係者が研究し、その年齢でメジャーリーグがメジャーリーガーにプレーさせようとしているレベルと同じことをさせるには、また、成長期の子供に無理をさせず無駄な怪我を排除するにはどのぐらいの距離が適当なのかを割り出し、決定した距離です。ダイヤモンドに無理やり体を合わせるのではなく、体の成長に従ってダイヤモンドを合わせていくのです。（選手に適したダイヤモンドサイズ参照）

Q ポニーは小さい時から硬式ボールですか？

A そうです。アメリカには軟式はありません。軟式は日本で作られたものです。アメリカの子供は野球のボール＝硬式ボールです。硬式野球が危ないといわれますが、それが本当ならアメリカは怪我人であふれかえってしまいますね。



ポニーベースボール Q & A



Q 1チーム以上登録できるのはなぜ？

A ポニーはアメリカで生まれたプログラムです。従って日本の高校野球の理念とは大きく異なります。日本では、部員が50人、100人いようがレギュラーはベンチ入りできる数だけです。それ以外の部員は白い練習着です。レギュラーにもれた部員は必死にレギュラーを目指してがんばります。3年間、試合に出られなくてもその努力を評価します。アメリカでは、白い練習着の選手の実力は認めません。登録部員全員を試合に出させます。そこで、2チームできる数の部員がそろい次第、2チーム目を作る義務が生じます。ポニーの理念は野球を通じて立派な社会人を育てよう、という事です。自己規律の確立、我慢、自己犠牲等、社会人になって必要になることは試合に実際出て、プレーしながら学び取りなさい、という事です。ポニーの部員数の多い所は毎年4チームを持ってリーグ運営をしています。そして全ての登録選手が公式試合に参加できることとなります。

Q リエントリーとは何ですか？

A スタメン9名に限って、一度選手交代でダッグアウトに戻っても、再度試合に出られるというルールです。この場合、打順は元のままですが、守備は変わってもかまいません。但し、投手だけは再度投手としては守備につけません。これも、選手交代に当たって、後のことを考えると指導者も容易に選手交代に踏み切れず、従って控えの選手はプレーの機会を失いやすい、という問題をスタメンを後に戻せるというルールを採用することによって解決し、1人でも多くの子供を試合に出させる、という事を可能にします。

Q 投手の投球回数に制限はある？

A あります。成長期の子供を故障から守るため国内では1試合最大で7回まで。連続する2試合において、合計最大10回までとします。国際大会では、1試合最大7回までで、連続する2試合においても合計最大7回までです。また、国際試合では、4回以上投げた場合、次の試合まで40時間の休憩時間を義務とします。

Q 世界選手権大会までの道のりは？

A 日本は中国、韓国、台湾、香港、ロシア（日本海側）、フィリピンと共にアジア・太平洋地域（通称AP地域）を構成しています。まず、日本代表決定戦に勝ち、その次にAP大会に勝ち上がりここで優勝して、はじめて世界選手権大会へ出場できます。世界選手権大会はマスタング（9～10歳）ブロンコ（11～12歳）ポニー（13～14歳）コルト（15～16歳）パラミノ（17～18歳）の各リーグが全米各都市で開催され、世界の60万人、3万チームの頂点に立つ大会となっています。これは他団体が行っている招待試合形式の世界大会ではなく、全世界のポニー登録チームのみで戦う、世界レベルの勝ち抜きトーナメント大会です。

Q メジャーリーガーの約7割がポニー出身って本当？

A 本当です。アメリカには中学生の野球団体が7つあります。その中で最大組織は PONY です。それ以外は、Babe Ruth, Dixie, AAU, AABC, NABF, USSSA, Super Seriesとあります。小学生の野球団体は最大組織がLittle League, 次がPONYの組織にあるBRONCO。小学生の割合ではリトルが約6割、ブロンコ3割、残り1割が他の小さな団体となっています。中学生ではポニーが約7割、他の6団体が残り3割の選手で構成されています。「全米規模で小学生と中学生のリーグを持っているのは PONY リーグのみです。」